

漫画で見守り活動を紹介

山鹿市社協 「地域力アップに」

山鹿市社会福祉協議会（栗原辰也会長）が、地域の見守り活動を分かりやすい漫画仕立てにした手引書

「ゆかいな！ ほのぼの地区物語」を作った。学校での福祉に関する授業でも活用してもらおうという。

A5判32ページで、2300部作製した。お年寄りが散歩の時間を子どもたちの登下校の時間帯に合わせることで子どもたちを見守ると

いった身近な助け合い、支え合いの事例などを4話構成で紹介している。

社協職員が考えた原案をもとに、崇城大学芸術学部マンガ表現コースの学生が全面的に協力した。職員と学生が話し合いを重ねながら、今年2月から5カ月ほどかけて完成させた。

社協によると、地域の見守り活動は民生委員や児童委員、市独自の福祉協力員に頼っている。しかし、一部の人たちの活動だけでは限界があるのが実態だ。

そこで、漫画の副題のように「誰かじゃない。みんなでやろうよ」という意識を市民一人ひとりに持ってもらおうことで地域力をアップさせようと、分かりやすい漫画で紹介することにしたという。



（尾立史仁）